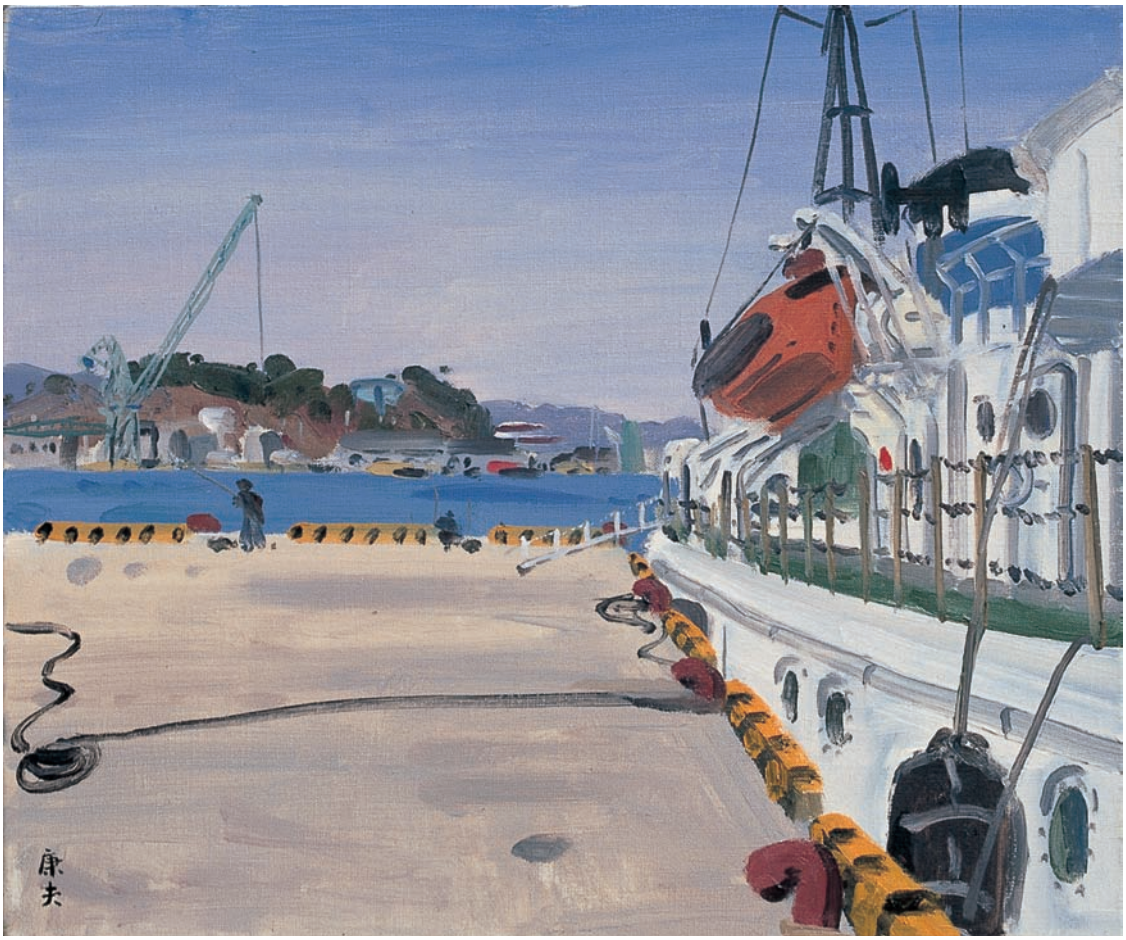
健康だより

2015.8 NO. 107

企画発行 仙台市医師会
後援 仙台市医療センター



ワクチンで守られる子どもたち

― 子どもの感染症 ―

かわむらこどもクリニック院長 川村　和久

ワクチンで守られる子どもたち
― 子どもの感染症 ―

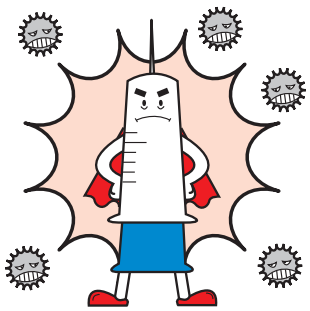
かわむらこどもクリニック院長　川村　和久

「健康だより」というと、どうしても大人、特に高齢者の話題に偏りがちです。今回は小児科医が担当して、読者の皆さんもよく知っている子どもの病気の話題を提供します。皆さんには縁遠いものと思いがちですが、大人が読んでもためになる、子どもの病気のお話をしましょう。

麻しん排除

麻しんは“はしか”と呼ばれ、誰でも知っている病気に違いありません。ずっと昔、麻しんは“命定め”とも呼ばれるぐらい、命に関わる病気だったのです。詳しい症状は割愛しますが、麻しんウイルスが原因で鼻水、咳、熱などの風邪と思わせる症状から始まり、熱が続き発疹が現れ、次第に病状は重くなり点滴や入院が必要になる割合も高い病気です。さらに、肺炎や脳炎などの合併症により、時には命に関わる病気なのです。そして厄介なことは、風邪のような症状で始まるため感染防止が極めて困難であり、未だに治療法がないのです。

治療法が無い重症な病気であるからこそ、唯一の予防策がワクチンであることに、すでに気付かれている読者も多いと思います。日本は医療の先進国なのは事実なのですが、ワクチンに関してはしばらくの間、後進国呼ばわりをされていました。10年前までは年間患者数が1万人を越え、悪名高き「麻しんの輸出国」と悪口をたたかれていました。そのような汚名を返上するために、2007年策定された「麻しん排除計画」をもとに、国を挙げての麻しん排除に取り組むことになったのです。ワクチンの2回接種、麻しん患者の全数把握などの取り組みが功を奏



し、今年3月日本から麻しんがいなくなったことがWHOから認定され、晴れて麻しん排除国の仲間入りができました。

麻しん排除は子ども達の健康を守る小児科医の長年の夢で、認定された3月27日は歴史的一日です。しかしこれはあくまでも入り口に過ぎません。米国では麻しんワクチンの自閉症との関係の誤解、免疫への悪影響、副反応、さらには宗教的考えをもとにした、不要論者の影響を受けて、再び麻しんの流行が広まった事実があります。ワクチン接種率を95％以上に維持できれば、海外から麻しんウイルスが持ち込まれても流行は阻止できるといわれています。幸い宮城県は2013年度の麻しん・風しんワクチン（MRワクチン）の接種率が98.6％（仙台市では統計上100％）で全国1位となっています。このことは県民市民のワクチン接種に関する意識の高さと小児科医を中心とした医師の取り組みの賜物です。麻しん流行を防ぐためにも、ワクチン接種の重要性を理解して、接種率を維持しましょう。

先天性風しん症候群

麻しんと似たような名前で、皆さんが知っている病気に“風しん”があります。風しんなのに、何故題名が先天性風しん症候群なのでしょうか。

風しんは比較的馴染みがないかもしれないので、簡単に症状を説明しておきましょう。風しんウイルスが原因で、飛沫で感染し、潜伏期は2～3週間です。感染したのに無症状の不顕性感染が多いことも特徴です。発熱、リンパ節腫脹、発疹が主症状で、発熱は半数程度で、数日で下がります。発疹はピンク色でかゆみがあり、顔面から始まり体、手足へと広がり3日ほどで消えるため、三日はしかとも呼ばれます。成人が罹患した場合は、発熱や発疹の期間が子どもに比べて長く、症状が重くなる傾向があります。

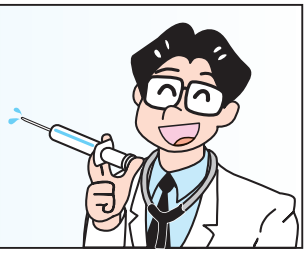
三日はしかと呼ばれるほど症状が軽いのですが、とても深刻な問題を抱えています。それが、先天性風しん症候群（CRS）です。（コラム参照）

CRSは大きな社会問題となっていますが、防ぐ手だてはワクチンだけです。3年前の大流行の特徴は成人の罹患で、罹患者の70％は男性で、うち20代～40代が80％を占めていました。成人男性の罹患が増えている理由には、1994年以前はワクチン対象者が中学生女子に限られていたこと、25

～33歳の男性は制度移行期でワクチン接種率が低かったことが関係しています。30代から50代前半の男性の5人に1人、20代の男性は10人に1人は風疹の免疫を持っていないというデータもあります。妊娠の可能性のある女性に対してはワクチン助成制度等の対策が行われていますが、要因の一端である成人男性に対しての取り組みは不十分です。子ども大人・男女にかぎらない対策のポイントを表1に示しました。

表1：風しん流行阻止のためのワクチン接種

1. MRワクチン定期接種（1期及び2期）を早めに接種
2. MRワクチン未接種者・未罹患者は、緊急に接種
3. ワクチン1回接種者は、MRワクチン追加接種
4. 30才以上50歳未満も、社会を守るためにMRワクチン接種



追記：罹患歴やワクチン接種歴があっても、新たに接種することに問題はありません。
風しん単独ワクチンよりもMRワクチン接種推奨です。

コラム

《先天性風しん症候群（CRS：Congenital Rubella Syndrome）》

妊娠初期の母体が風疹に罹患すると胎児も感染し、難聴、心疾患、白内障、そして精神や身体の発達遅滞等の障害をもつ児が生まれる可能性があるのです。妊娠の時期によって発生頻度が変わりますが、妊娠12週までの罹患では発症の可能性が高くなること（25～90%）が示されています。

CRSの症状は改善するものでは無く、さらには治療法もないため、親御さんもお子さんも生涯にわたる大きな負担を背負うことになってしまいます。

CRSの発生数は以前年間1例程度でしたが、3年前からの大流行とともに増加し、2012年4例、2013年32例、2014年9例（10月8日現在）と45例が報告されています。また、不顕性感染が多く気付かないうちに胎児が感染しているケースもあること、生まれて初めて診断される場合もあるため、今後も増加することが危惧されています。

た。子どもそして社会を守るためという意識を持って、MRワクチンの接種を受けましょう。

水　痘

麻しん風しんとくれば、次は水痘（水ぼうそう）と誰でも推測がつくことでしょう。水痘に関しても少しおさらいをしましょう。水痘帯状疱疹ウイルスが原因で、飛沫及び接触感染で広がります。潜伏期は約2週間で、2～4歳にピークがあります。知られていないのが感染力で、インフルエンザよりも強く、集団生活では容易に広がります。帯状疱疹は水痘罹患後に時を経て神経節に潜んでいるウイルスが、ストレス、感染などによって活性化されて発症します。

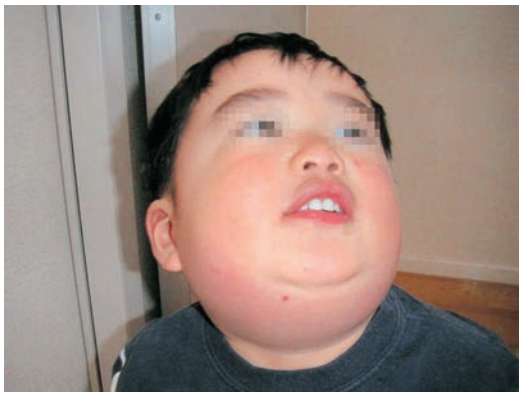
症状は発熱と発疹で、発熱は37～38℃台で約3/4にみられます。発疹は、紅斑～丘疹～水疱（水ぶくれ）～痂皮（かさぶた）と急速に変化し、経過は約1週間です。よく耳にする病気のため軽い病気と侮られがちですが、時に免疫不全などの病気や免疫を抑える治療をしている患者さんでは死に至ることもあります。昔は命定めと言われた麻しんによる死亡が一位ですが、麻しんが見られなくなってからは、今回説明する病気の中では水痘が一位となっています。

抗ウイルス薬による治療が可能な数少ない疾患のひとつですが、罹ってからしか治療はできません。当然のことながら予防が重要で、その唯一の方法がワクチン接種です。昨年には水痘ワクチンも定期接種となり、無料で2回接種できるようになりました。定期接種化されて、水痘の減少という効果が現れてきています。

ムンプス難聴

最後は、頬がふくれてみえる「おたふくかぜ」で、正式名称は流行性耳下腺炎（ムンプス）です。おたふくなのに、何故題名が難聴なのでしょうか。

この理由は後で説明するとして、まずは復習をしておきましょう。原因はムンプスウイルスで、飛沫により感染します。潜伏期は2～3週間で、幼児



と学童を中心に流行します。不顕性感染が多い（30～40％）のが特徴です。症状は、唾液腺（耳下腺・顎下腺）の腫れと痛みです。約半数に発熱がみられ、唾液腺の腫れは1週間から10日ほど続きます。合併症には無菌性髄膜炎、精巣炎（睾丸炎）等があります。「おたふくに罹るとたね無しになる」との俗説がありますが、大人での可能性はあるにしても高くはなく、子どもでの心配はほとんどありません。

さて難聴とおたふくの関係は知らない方がほとんどでしょう。しかしながらおたふくにかかった人の1人/1000人程度が難聴になることがわかってきました。難聴になるかどうかは、病気の重症度とは無関係です。先に述べた不顕性感染でも、難聴になってしまうことがあります。

おたふくかぜも治療法のない病気のひとつです。唯一の予防法がワクチンであることは言うまでもありません。ワクチン接種により、難聴だけでなく無菌性髄膜炎や精巣炎予防も可能です。幸い仙台市では一昨年7月から、おたふくの予防接種の費用助成を行って、2,500円の負担で接種可能です。

今回の記事は子どもの病気の話にしましたが、お気づきの読者もいると思いますが、実際に伝えたかったのはワクチンの重要性です。風邪を含めてウイルスによって起こる病気は200種類以上もあるといわれています。しかしながら治療法はほとんど無く、感染予防のためのワクチンも僅かです。そのようななかでワクチンで予防できる病気をVPD:（Vaccine Preventable Diseases）と呼んで、我々小児科医はワクチン推進活動を行っています。

ワクチンで防げる病気（VPD）があるのにワクチン接種をしないことは、本当にもったいないことです。ワ

クチンは個人の病気の防衛と考えがちですが、ワクチンが普及することは社会を守ることにもつながります。特に先天性風しん症候群の悲劇をくり返さないためにも、成人男子も進んで接種を受けることを考えましょう。

最後に、お子さん、お孫さんが1歳になったらMR・水痘・おたふくワクチンの3点セットを同時に接種して(同時接種：コラム参照)、誕生日のお祝いとしてプレゼントしてあげましょう。

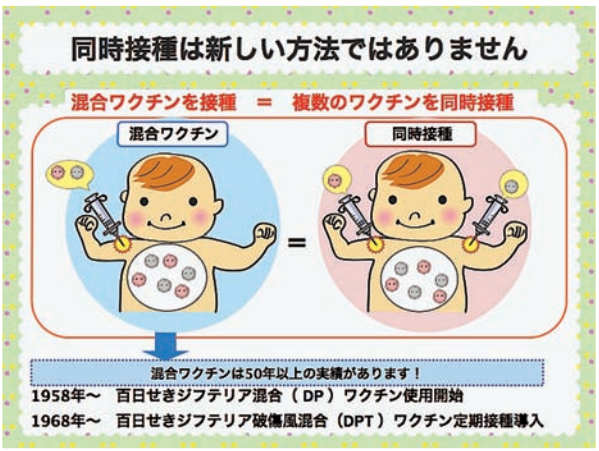
コラム

《同時接種》

最後の“3点セットを同時に接種して”という言葉で、驚かれた読者もいるでしょう。同じ日、同じ時間帯に複数のワクチン接種をすることを同時接種と呼び、現在は普通に行われていることです。皆さんの経験から予防接種は1本打つものと認識しているため、“危険じゃない？”“大丈夫？”と思うかもしれません。

しかしながら、日本小児科学会の「予防接種の同時接種に対する考え方」では次のように示されています。

1. 有効性に差がない
2. 副反応が増えることはない
3. 本数の制限はない
4. 摂取率が向上する
5. 早期に免疫が獲得できる
6. 保護者の経済的、時間的負担が軽減する
7. 医療者の時間的負担が軽減する



上記の結論を示せば、同時接種はメリットがたくさんあるということです。是非、同時接種を理解して、お子さん、お孫さんに勧めてあげましょう。

参考：YouTube「同時接種-同時接種の意味と方法を紹介-」
https://www.youtube.com/watch?v=2XU_IgZKE3w

休日テレホンサービス
☎022-223-6161
〔休日／7:00～16:00〕

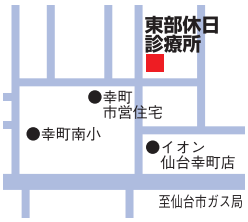
宮城県休日・夜間診療案内（仙台市内）
☎022-216-9960
FAX兼用

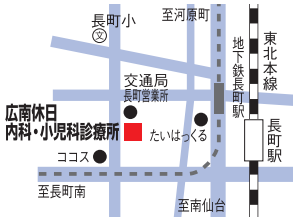
初期救急医療機関案内電話番号
☎022-234-5099
〔平日／19:00～翌朝7:00〕
〔土曜／14:00～翌朝7:00〕
〔休日／ 9:00～翌朝7:00〕

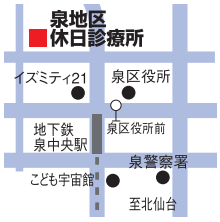
日曜日・祝日

内科・小児科

東部休日診療所	広南休日 内科・小児科診療所	泉地区 休日診療所
☎022-291-5566 宮城野区幸町3-12-1	☎022-248-5858 太白区長町5-9-13（高齢者向け住宅「時のかけはし」2F）	☎022-373-9197 泉区泉中央2-24-1（イズミティ21北側）
診療受付時間 9:00～16:45	診療受付時間 9:00～17:00	診療受付時間 9:00～16:00







在宅当番医

内科
・
小児科
・
整形外科

※毎回異なりますので、「仙台市政だより」の「休日当番医」をご覧ください。

日曜日・祝日・夜間・土曜日午後

急患センター

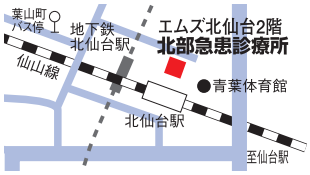
☎022-266-6561
若林区舟丁64-12

●診療科目・時間

診療受付時間 ＼ 診療科目		内科	外科	整形外科	婦人科	眼科	耳鼻咽喉科
平日	19:15～23:00	○	○				
	23:00～翌朝7:00	○					
土曜	14:45～23:00	○	○				
	23:00～翌朝7:00	○					
日曜・祝日	9:45～17:00	○	○	○	○	○	○
	18:00～23:00	○	○				
	23:00～翌朝7:00	○					

北部急患診療所

☎022-301-6611
青葉区堤町1-1-2　エムズ北仙台2階

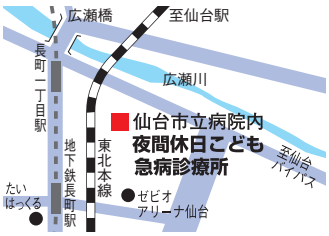


●診療科目・時間

診療受付時間 ＼ 診療科目		内科	小児科	外科
平日	月～木曜19:15～23:00	○		○
	金　曜19:15～23:00	○	○	○
土曜	14:45～23:00	○	○	○
日曜・祝日	9:45～17:00	○	○	○
	18:00～23:00	○	○	○

夜間休日こども急病診療所

☎022-247-7035
太白区あすと長町1-1-1　市立病院1階



●診療科目・時間

診療受付時間 ＼ 診療科目		小児科
平日	19:15～翌朝7:00	○
土曜	14:45～翌朝7:00	○
日曜・祝日	9:45～17:00	○
	18:00～翌朝7:00	○